

# 小西きよつぐ活動報告

甲賀市議会議員 信楽町勅旨456

電話・FAX 0748-83-0765 携帯電話 090-4900-2249 メール: [k-konishi@live.jp](mailto:k-konishi@live.jp)  
携帯メール [kemnsr456220@docomo.ne.jp](mailto:kemnsr456220@docomo.ne.jp)

皆さんの声、ご意見をお聞かせください。

N046 2013年12月15日



**12月議会一般質問 小西議員は12/17（火）の3番目。傍聴をお願いします。** 質問の具体的項目は下記のとおりです。ご意見をお寄せください。

## 福祉充実の市民要望の実現を求める

安倍政権がすすめる「社会保障制度改革」は、「制度改革」の基本を「国民の自助・自立のための環境整備」とし、憲法25条に基づく社会保障を解体して、公的支えをなくし、国民を無理やり「自助」に追い込もうとしています。

具体的には、社会保障にたいする国の責任を丸ごと放棄し、医療、介護、年金、子育てなど社会保障のあらゆる分野で負担増と給付減を強行する憲法25条に真っ向から逆らう社会保障の解体をすすめようとしています。

消費税導入・増税の口実としてきた社会保障制度を充実ではなく削減し増税と一体ですすめようとしている点も重大な問題です。こうした中、先の市議会議員選挙で日本共産党甲賀市議員団が掲げた福祉に関する公約には市民から大きな共感と期待が寄せられました。その実現を求める質問です。

- ①政府がすすめる社会保障制度改革は、制度の解体となるものとするのが市長の認識を問います。
- ②中学校卒業までの通院医療費の完全無料化に向けた今後の計画をもとめます。
- ③特別養護老人ホームの待機者解消に向けて増設計画が必要です。待機者の現状認識、待機者解消のために特養増設の計画を求めます。
- ④高すぎて払えない国民健康保険税を払えるよう引き下げのために、当面一世帯一万円の引き下げを求めます。

## 信楽高原鐵道の早期全面復旧を求める

これまでの県・市の要望に対して、12月初旬には国の鉄道災害復旧事業費補助制度の対象となることになりました。早期再開に向けての市の態度と今後の対応を質します。

- ①信楽高原鐵道の再開に対する市長の考え、また、再開への要望に対する認識を質します。
- ②副市長に信楽高原鐵道の社長として対応しようとしているのか質します。
- ③これまで国・県にどういう働きかけをしてきたのか。要望事項とその結果について問います。
- ④今回の災害は、上下分離になっての初めての大規模災害であり、既存の支援制度、枠組みでは自治体に大

きな負担となる。また、今後上下分離を検討している第三セクターが上下分離を選択していく障害になる。認可した国の責任、国の上下分離推進の方向性からしても国の特例的な措置の必要性の認識を問います。  
⑤災害の調査結果と復旧のめど、復旧に向けての取り組みをたします。

## 大戸川・信楽川の早期浚渫・改修を求める

台風18号の大戸川・信楽川の被害の大きな要因は川床の浚渫・改修がされていなかったことです、早急な対応を求める質問です。

- ①台風18号による河川による被害の実態とその主な要因、具体的な対応策をもとめます。

## 県道大津信楽線つけかえ道路の早期開通を求める

台風18号により県道の大津信楽線、信楽栗東線、牧甲西線など信楽町と他地域を結ぶ主要な道路が通行止めとなりました。そのため、信楽地域在住者はもとより、多くの市民・県民には、国道307号による迂回、新名神高速道路の利用など、財政的にも身体的にも大きな負担が強いられました。

今後もこのような事態が繰り返される可能性は大きいので、このような事態を回避する上で、大戸川ダム建設関連事業であった県道大津信楽線（大津市牧町～甲賀市信楽町黄瀬）の早期開通を求める質問です。

- ①現在の工事進行状況と開通計画は。甲賀市として県に積極的に働きかける必要をもとめる質問です。

②台風18号により県道の大津信楽線、信楽栗東線、牧甲西線など信楽町と他地域を結ぶ主要な道路が通行止めとなったため、やむなく新名神高速道路を利用した者もおられました。

こうした場合に新名神高速道路通行料の無料措置について、10月3日の国土交通省との交渉では「道路管理者である県からネクスコ（旧道路公団）に要請すれば、無料化も可能」との回答でした。そこで、県に要請したところ、「迂回路307号線があるからできない」との回答でした。

市としてこの措置を市民の負担軽減のため、県へ働きかけることを求める質問です。